

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370577

研究課題名(和文) テキストの結束性を重視した母語別作文コーパスの作成と分析

研究課題名(英文) Development and Analysis on Composition Corpus by Native Languages with an Emphasis on Cohesiveness among Texts

研究代表者

金井 勇人 (KANAI, Hayato)

埼玉大学・人文社会科学部研究科(学際系)・准教授

研究者番号：70516319

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：(1)母語別日本語作文コーパスの作成とWEBでの公開。作文の本数：180本。作文の長さ：1本につき2000字程度。作文の執筆者：中国語・韓国語・日本語母語話者、各60名(合計180名)。作文のジャンル：説明文・意見文・歴史文の3ジャンル(各60本)。

(2)上記コーパスを使い、日本語学・日本語教育の観点から分析。主にテキストの結束性をキーワードに、関連する複数の論文を発表した。また今後は、本科研のメンバーが中心となって論考を書き下ろし、論文集(書籍)を刊行する(書名『現場に役立つ日本語教育研究シリーズ 第3巻 わかりやすく書ける作文シラバス(仮)』(くろしお出版、2017年2月刊行予定)。

研究成果の概要(英文)：(1) The development of a Japanese composition corpus of native languages (Japanese, Chinese and Korean) and its publication on the WEB such that the corpus consists of 180 compositions; each composition is about 2000 characters in length. The compositions are divided evenly into one of three genres: explanation, opinion, or history.

(2) Using the corpus, we analyzed each composition from the point of view of Japanese linguistics and Japanese education, mainly looking for cohesiveness among the texts. From that analysis, we published a plurality of related papers. In February 2017, a collection of newly written papers by members involved in this study along with some others will be published book form, entitled, Genba ni yakudatsu Nihongo kyoiku kenkyu series, Volume 3, Wakariyasuku kakeru sakubun syllabus (tentative title), (Kurosio Publishers).

研究分野：日本語教育、日本語学

キーワード：日本語教育 作文 テキストの結束性 母語別作文コーパス 作文シラバス

1. 研究開始当初の背景

(1) 作文コーパスについて

既存の作文コーパスは、アカデミック・ジャパニーズ(大学での学習で使用される日本語)の特徴を分析するのにふさわしい、とは言いがたい。それには、以下のような欠点が指摘できるだろう。

- ・母語ごとに十分な量が集まっていない。
- ・個々の作文の長さが短い。
- ・ジャンルと作文との関連性が見えない。

(2) 分析について

本研究は「テキストの結束性」を重視している。現状の日本語学・日本語教育における作文の分析で、この「テキストの結束性」をキーワードとして行われたものは多くない(特に論文集は管見の限り存在しない)。

2. 研究の目的

(1) 作文コーパスについて

前項で挙げた既存のコーパスの不十分な点を補うべく、本研究では、新たな作文コーパスを作成する。

(2) 分析について

母語別作文コーパスを利用して、これまで先行研究の多くない「テキストの結束性」をキーワードにした分析を、本研究では行う。その結果について、メンバーが個々に論文を発表する。また(それとは別に)、メンバーおよび関係者が、1つのコンセプトのもとに論考を書き下し、論文集を刊行する。

3. 研究の方法

(1) 作文コーパスについて

中国語母語話者 60 名、韓国語母語話者 60 名、日本語母語話者 60 名、合計 180 名に、日本語作文を書いてもらう。180 本という大量の作文を収集するのは、既存の作文コーパスの「母語ごとに十分な量が集まっていない」という欠点を補うためである。各執筆者は母国在住の大学生で、全員、日本語能力試験 N 1 レベルの日本語能力を有する。

また、1本の作文の長さは 2000 字程度とする。既存のコーパスの「個々の作文の長さが短い」という欠点を補うために、2000 字という長い作文を書いてもらう。

さらに、作文のジャンル(題目)として、以下の3つを用意する。

- ・説明文 -- 自分の故郷について --
(客観的な主張であって、主観的にならないように書く)
- ・意見文 -- 晩婚化の原因とその展望について --
(説明ではなく、根拠とともに自分の主張を書く)
- ・歴史文 -- 自分の趣味(昔から続けて

いること)について --
(時間軸に沿って、ある出来事や経緯を書く)

3つの異なるジャンル(題目)で書いてもらい、それらを対照することによって、既存のコーパスの「ジャンルと作文との関連性が見えない」という欠点を補う。

作文の収集にあたっては、WEB上で作文を書けるシステムを構築する。各執筆者はそのシステムを使って、自身の国に居ながらにして、(コンピューター上で)作文を書くことができる。

また、収集した作文を電子化して整理し、最終的にはWEB上での公開に至らせる。WEBでの公開にあたっては、専門業者にも依頼して、様々な検索等の機能を備える。

公開した本コーパスは、日本語学・日本語教育の関係者等に、広く有効活用してもらうことを期する。

(2) 分析について

作文コーパスの公開前、本研究のメンバーは、未整理の作文データを利用する等して、一足早く、分析を開始する。その観点は以下のようなものである。

- ・「は」と「が」 - 文章のタイプと「は」と「が」の現れ方など。
- ・名詞句の省略 - 繰り返し、言い換え - 名詞句に再度言及する場合の諸相。
- ・接続詞(接続詞と文章のジャンルの関係) - 例:税金が値上げされた。また、物価も徐々に上がっている。
- ・指示詞 - 例:私には山田という友人がいます。その友人は...
- ・序列表現 - 順序を表す表現と文章構造の関係。
- ・複文/重文 - 接続詞/接続助詞の選択が連接関係/情報構造に及ぼす影響。
- ・文型選択 - 分裂文/存在文/疑問文の選択と前後の文脈との関係。
- ・視点と立場(ヴォイスの選択など) - 例:おじいさんが柴刈りに行った家の裏にある大きな山。
- ・モダリティ表現 - 「のだ」「わけだ」の選択と統括、段落との関係。
- ・文末表現 - 「と思われる」「と言える」など。

上記の観点から行われた分析結果をもとに、メンバーは個々に論文を発表する。

また、コーパス公開後には、本研究のメンバーおよび関係者は、コーパスを利用して、新たな分析を開始する。それをもとに論考を書き下ろし、論文集を刊行する。

4. 研究成果

(1) 作文コーパスについて

公開した作文コーパスには、以下のような

システム上の機能を備えた。

【キーワードによる検索】

検索機能として、以下の5種を備えた。

・通常の検索

1つのキーワードで検索すると、それを含む文を抽出する。

(例)「私は」で検索

「そして私は映画を見ることも好きです。」

・AND 検索

複数のキーワードで検索すると、その全てを含む文を抽出する。

(例)「私は 日本語の」で検索

「アニメが大好きな私は高校時代から日本語の歌を聞き始めた。」

・OR 検索

複数のキーワードで検索すると、そのうちのいずれかを含む文を抽出する。

(例)「私は 日本語の」で検索

「アニメが大好きな私は高校時代から日本語の歌を聞き始めた。」

「私は自分の出身地が好きだ。」

「そして、日本語の言葉それ自体の魅力にもっと近づいていきたいと思います。」

・前方一致検索

ある文字列で検索すると、その文字列を前方に含む語を抽出する。

(例)「不」で検索

「不安定」「不景気」「不十分」「不可欠」

(現在は調整中のため非公開。近日公開)

・後方一致検索

ある文字列で検索すると、その文字列を後方に含む語を抽出する。

(例)「的」で検索

「比較的」「積極的」「一元的」「生物的」

(現在は調整中のため非公開。近日公開)

【学習者情報による条件指定】

検索をするにあたって、そのキーワードが含まれる作文の条件を指定しておく。以下の項目から1つを選択し、条件を指定できる。

・学習者 ID : j- / c- / k-

(先頭の j は日本語母語話者、c は中国語母語話者、k は韓国語母語話者を表す)

・ジャンル : 説明文 / 意見文 / 歴史文

・母語 : 日本語 / 中国語 / 韓国語

・学習年数 : 5 年未満 / 5 年以上

・性別 : 男性 / 女性

【全文表示 / 誤字情報】

・上記の検索機能においては、検索結果は文単位で表示される。そこで、その文を含む作文全文を、テキストファイルで表示できるようにした。さらにそれを PDF ファイルに変換

することもできるようにした。

・本コーパスに収録している作文は、検索に引かかるようにするために、誤字を修正してある。「全文表示」では誤字の情報を得られないが、該当ボタンを押すことによって、「誤字があった箇所をハイライトする」ことおよび「修正する前の誤字を表示する」ことができるようにした。

(2) 分析について

本研究のメンバーは、公開前の未整理の作文データを利用するなどして、個々に論文発表や学会発表などを行った。詳細は、次項の〔雑誌論文〕〔学会発表〕〔図書〕に記す。

また、それとは別に新たに書き下ろすことになる論文集(書籍)の詳細を以下に記す。

・書名 :

現場に役立つ日本語教育研究シリーズ
第3巻

わかりやすく書ける作文シラバス(仮)

・出版社 : くるしお出版

・刊行時期 : 2017 年 2 月

・執筆者 :

新城 直樹(琉球大学・専任講師)

庵 功雄(一橋大学・教授)

石黒 圭(国語研究所・教授)(編者)

岩崎 拓也(一橋大学・大学院生)

金井 勇人(埼玉大学・准教授)

高 恩淑(一橋大学・非常勤講師)

黄 明侠(ハルビン師範大学・准教授)

末繁 美和(岡山大学・准教授)

依山 雄司(名古屋大学・准教授)

張 志剛(広東外語外貿大学・専任講師)

永谷 直子(相模女子大学・専任講師)

宮澤 太聡(大阪観光大学・専任講師)

宮部 真由美(一橋大学・非常勤講師)

劉 洋(黒竜江大学・専任講師)

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

(1) 金井勇人・河正一(2016)「書き言葉に現れるア系の指示語について - 日本語・韓国語学習者の作文を資料に - 」『埼玉大学日本語教育センター紀要』10, pp.37-45, 査読有

(2) 庵功雄(2015)「What can the research on Japanese anaphoric demonstrative contribute to general linguistics? 」『Hitotsubashi Journal Arts and Sciences』56-1, pp.13-27, 査読有

(3) 石黒圭(2015)「書き言葉・話し言葉と『硬

さ/軟らかさ』『日本語学』34-1, pp.14-24, 明治書院, 査読無

- (4) 金井勇人 (2015) 「韓国語話者と中国語話者の指示詞「ソ ア」の誤用 - 共有知識とは何かという観点から - 」『埼玉大学日本語教育センター紀要』9, pp.3-15, 査読有
- (5) 金井勇人 (2014) 「作文の誤用分析のための日本人学生と外国人留学生との混在型授業」『埼玉大学日本語教育センター紀要』8, pp.25-34, 査読有
- (6) 依山雄司 (2013) 「講義における専門用語の説明に対する日本語学習者の評価 - わかりやすい説明の方法を探るために - 」『専門日本語教育研究』15, pp.27-34, 査読有

〔学会発表〕(計3件)

- (1) 石黒圭 (2015.02.17) 「母語話者・学習者の作文執筆プロセスにおける修正の諸相」第56回 NINJAL コロキウム講演, 国立国語研究所 (東京都・立川市)
- (2) 依山雄司 (2014.12.23) 「経緯を述べる文章における接続詞の使用 - 日本語母語話者と非母語話者の比較 - 」第6回談話分析コロキウム, 山形テルサ (山形県・山形市)
- (3) 依山雄司 (2014.02.23) 「講義における一般語の語義説明に対する日本語学習者の評価」シンポジウム『評価』を持って街に出よう - ひとつひとつをつなぐための評価研究 -, 政策研究大学院大学 (東京都・港区)

〔図書〕(計6件)

- (1) 庵功雄 (2015) 「日本語学的知見から見た初級シラバス」庵功雄・山内博之編『現場に役立つ日本語教育研究1 データに基づく文法シラバス』pp.1-14 (全280頁), くらしお出版
- (2) 庵功雄 (2015) 「日本語学的知見から見た中上級シラバス」庵功雄・山内博之編『現場に役立つ日本語教育研究1 データに基づく文法シラバス』pp.15-46 (全280頁), くらしお出版
- (3) 庵功雄 (2015) 「「産出のための文法」に関する一考察 - 「100%を目指さない文法」再考 - 」阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三編『文法・談話研究と日本語教育の接点』pp.19-32 (全360頁), くらしお出版
- (4) 石黒圭 (2015) 「日本語学習者の意見文に見られる列挙の文章構造の問題点 - 中国

語母語話者と日本語学習者の予告文を比較して - 」阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三編『文法・談話研究と日本語教育の接点』pp.223-242 (全360頁), くらしお出版

- (5) 依山雄司 (2015) 「談話終結部における文のタイプ」阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三編『文法・談話研究と日本語教育の接点』pp.265-283 (全360頁), くらしお出版
- (6) 石黒圭・金井勇人・安部達雄・烏日哲・志賀玲子・渋谷実希・志村ゆかり・武一美・筒井千絵・二宮里佳 (2014) 『日本語教師のための実践・作文指導』全225頁, くらしお出版

〔ホームページ〕

J C K 作文コーパス
(母語別日本語作文コーパス)

URL:
<http://nihongosakubun.sakura.ne.jp/corpus/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金井 勇人 (KANAI, Hayato)
埼玉大学・人文社会科学部研究科(学際系)・
准教授
研究者番号: 70516319

(2) 研究分担者

依山 雄司 (TAWARAYAMA, Yuji)
名古屋大学・国際機構国際言語センター・
准教授
研究者番号: 30466685

石黒 圭 (ISHIGURO, Kei)
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立国語研究所・研究系 日本語教育
研究領域・教授
研究者番号: 40313449

末繁 美和 (SUESHIGE, Miwa)
岡山大学・全学教育・学生支援機構 基幹
教育センター日本語教育部門・准教授
研究者番号: 60638998

庵 功雄 (IORI, Isao)
一橋大学・国際教育センター・教授
研究者番号: 70283702

新城 直樹 (ARASHIRO, Naoki)
琉球大学・国際教育センター・講師
研究者番号: 90367128